

講義科目名称： 教育原理

授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

| | | | |
|--------------------|-------------------|----------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数(週時間) | 科目必選区分 |
| 後期 | 1年 | 2単位(2-0) | 必修科目 |
| 担当教員 | | | |
| 平中 尚子・糸洲 理子 | | | |
| 授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり | ナンバリング：EEB3111102 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>【テーマ】 教育についての基礎的な理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：教育の理念や意義、目的、制度などの基本的概念について学び、それらが教育の歴史や思想を通して、どのように現れてきたかについて理解することができる。また、教育及び学校教育がどのように捉えられ、変遷してきたかについて、乳幼児期の教育の特性や学校教育との相違、生涯教育について理解することができる。 技能の観点：教育について基礎的な理論を学習し、現代の教育の特徴と課題について自らの考えを述べることができる。 態度の観点：教育について自ら考えることができる。また、他者との討論をとおして、協働して教育を実践するための態度を獲得できる。</p> |
| 授業の概要 | <p>教育が社会の中でどのように誕生して営まれてきたのか、教育の歴史や思想の変遷を通して教育の意義や目的、教育法規、教育制度など実践に必要な基礎理論について理解する。また、乳幼児期の教育の特性や学校教育との相違、生涯教育についても理解する。</p> |
| 授業計画 | <p>第1回 講義概要及び評価基準の説明、「教育」とは何か？ 授業の始めに講義概要及び評価基準について説明する。 社会の中で営まれている「教育」とは何か、自ら受けてきた学校教育を通して改めて考える。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章を読み、分からない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第2回 教育の歴史①：欧米の教育史 諸外国で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第2章（pp. 30-48）を読み、分からない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第3回 教育の歴史②：日本の幼児教育理論 日本で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第2章（pp. 49-56）を読み、分からない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第4回 日本の幼児教育と保育の歴史 日本で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と変遷を理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第3章を読み、分からない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第5回 子どもの発達と教育 子どもの発達と発達理論について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章を読み、分からない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第6回 教育と子ども家庭福祉における目的と目標①：教育 教育の目的と目標について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章（pp. 112-118）を読み、分からない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第7回 教育と子ども家庭福祉における目的と目標②：児童福祉 教育と児童福祉の関連について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章（pp. 118-127）を読み、分からない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第8回 幼児教育・保育の制度 日本や諸外国の幼児教育・保育の制度について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章を読み、分からない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第9回 教育・保育の計画</p> |

| | |
|------------------------|--|
| | <p>全体的な計画・教育課程の編成と指導計画について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第10回 子どもの発達の特徴と遊び 子どもの発達の特徴と遊びについて理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第8章を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第11回 幼児教育と保育の教育評価 評価の必要性と方法について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第9章を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第12回 特別支援教育 特別支援教育と支援について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第10章を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第13回 幼児期の教育と児童期の教育 就学前の幼児教育・保育の目的・方法と小学校以降の教育の違いを理解する。 【事前学習】授業前に「幼稚園教育要領」第1章及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」第1章、「保育所保育指針」第1章を読むこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第14回 生涯学習社会における幼児教育と保育 生涯学習の理念について理解する。また、幼児教育・保育の現状と課題について討議する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第11章を読み、インターネット等で情報を収集する。わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点、情報リテラシーについて整理すること（2時間）</p> <p>第15回 専門職としての保育者 子どもを教育する教育専門職について理解し、これからの保育者に求められるものについて討議する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第12章を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第16回 定期試験 ※遠隔で試験を実施する場合は、詳細について別途通知する。</p> |
| 授業における具体的な特色や方法 | 1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/> |
| テキスト | 古橋和夫 編著 『子どもの教育の原理 明日の保育をひらくために』 萌文書林 2021年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年 |
| 参考書 | ミネルヴァ書房編集部 [編] 2022年 『最新保育資料集2022』 ミネルヴァ書房 その他、必要な資料は適宜配布する。 |
| 評価方法 | 試験50%、レポート20%、課題20%、討議10%で総合的に評価する。 なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。 |
| 評価基準 | 各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) -：出席不足 |
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | <input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追究する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。 |
| 履修上の注意 | 講義形式の授業だが、双方向型の講義を重視し、できるだけ発言の機会を設ける。 新聞やニュースを閲覧して、子どもや教育を取り巻く時事問題に関心を持つこと。 ※課題の提出期限を厳守すること。 |
| オフィスアワー | 平中：毎週*曜日*限目 平中研究室（西研2-8） 糸洲：毎週*曜日*限目 糸洲研究室（西研3-8） |
| 課題に対するフィードバック方 | 課題及びレポートは、評価後に返却する。 |

| | | | |
|---------------------|-------------------|----------|------------------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数(週時間) | 科目必選区分 |
| 前期 | 1年 | 2単位(2-0) | 選択科目 (幼免・保育士：必修) |
| 担当教員 | | | |
| 平中 尚子・糸洲 理子 | | | |
| 授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり。 | ナンバリング：EEB3211131 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>【テーマ】 教職・保育職の意義と役割の理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点 ・現代社会における教職・保育職の意義と役割、倫理、制度的位置づけ、職務内容について説明することができる。 ・教職・保育職に必要な資質能力や専門性について説明することができる。 技能の観点 ・教職・保育職の意義と役割、教職・保育職に必要な資質能力や専門性について自らの考えを述べるができる。 態度の観点 ・他者と協働して討論に参加することができる。 ・教職・保育職につく者として、自己について客観的に振り返ることができる。</p> |
| 授業の概要 | 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の意義と役割、倫理、制度的位置づけ、職務内容（研修、服務、身分保障等）について理解し、自らの幼稚園教諭・保育士像を明確にする。また、幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資質能力や専門性について理解し、幼稚園教諭・保育士の協働、関係機関との連携の在り方、現代の保育問題についても理解を深める。なお、クラス担当者はそれぞれの保育所保育士、幼稚園教諭としての実務経験を活かし、保育者の意義や役割、資質能力、職務内容等について、具体的な事例を踏まえて講義する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 講義概要及び評価方法、「幼稚園教諭・保育士になる」ということ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 講義概要及び評価方法について理解する。 幼稚園教諭や保育士になるとは、どういうことか、自らの保育歴をふまえて考える。 【事前学習】初回講義前に、保育者になりたい理由を考えておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第2回 保育所保育士の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 保育所の一日のDVDを視聴し、保育所保育士の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト序章（pp.13-22）、第1章（pp.23-25,29-33）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第3回 幼稚園教諭の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園の一日のDVDを視聴し、幼稚園教諭の仕事と役割について理解する。保育所と幼稚園の違いについて、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第1章（pp.25-29）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第4回 保育教諭の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 保育教諭の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章（pp.33-41）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第5回 教育・保育に必要な子ども理解 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育・保育を行う上で、子どもをどのように理解するかについて学ぶ。 【事前学習】授業前にテキスト第3章（pp.50-70）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第6回 幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士に求められる資質と能力について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.71-86）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第7回 職場で学び合う専門家 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育・保育を行う者として、職場で上司や同僚とどのように学び合い、自己を高めるかについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章（pp.87-104）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第8回 特別支援教育・保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 特別な支援を要する子どもの教育及び保育について理解する。事例について、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第7章（pp.119-123）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> |

| | |
|------------------------|---|
| 第9回 | 子育て支援と幼稚園教諭・保育士の役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 子育てする保護者を支援するために必要な、幼稚園教諭や保育士の役割について理解する。事例について、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 116-136) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) |
| 第10回 | 現代社会の保育問題と幼稚園教諭・保育士の役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 現代社会を取り巻く様々な保育問題について、幼稚園教諭や保育士が果たす役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第8章 (pp. 137-150) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) |
| 第11回 | 幼稚園教諭・保育士の職務：サービス、研修、身分保障 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士のサービスや研修、身分保障について学び、その職務を理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp. 105-115) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) |
| 第12回 | 幼稚園教諭・保育士に求められる倫理 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育・保育を行う際に、幼稚園教諭や保育士に求められる倫理について理解する。事例について、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第2章 (pp. 42-49) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) |
| 第13回 | 日本の保育者のあゆみ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士の権利について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第9章 (pp. 151-166) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) |
| 第14回 | 専門職間及び関係機関との連携 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 園の内外の専門職や関係機関との連携について理解する。 【事前学習】授業前に配付する資料を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) |
| 第15回 | 幼稚園教諭・保育士の専門性とライフコース ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士の専門性について理解する。また、保育者のライフコースについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第10章 (pp. 167-188) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) |
| 第16回 | 定期試験 ※遠隔で試験を実施する場合は、詳細について別途通知する。 |
| 授業における具体的な特色や方法 | 1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/> |
| テキスト | 編集代表 秋田喜代美 編集 西山薫他 『新時代の保育双書 今に生きる保育者論 第4版』 みらい 2019年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年 |
| 参考書 | ミネルヴァ書房編集部 [編] 『最新保育小六法・資料集2023』 ミネルヴァ書房 2023年 その他、必要な資料は適宜配布する。 |
| 評価方法 | 試験50%、レポート15%、講義内課題10%、討議10%、振り返り15%で総合的に評価する。 なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。 |
| 評価基準 | 各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 出席不足 |
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | 【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。 |
| 履修上の注意 | 講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。 課題の提出は期限を厳守すること。 |

| | |
|---------------------|--|
| オフィスアワー | 平中：毎週水曜日3限目 平中研究室（西研3-4） 糸洲：毎週木曜日2限目 糸洲研究室（西研3-8） |
| 課題に対する フィードバック方法 | 課題及びレポートは、評価後に返却する。 |

| | | | |
|--------------------|-------------------|----------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数(週時間) | 科目必選区分 |
| 前期 | 1年 | 2単位(2-0) | 必修科目 |
| 担当教員 | | | |
| 大城 りえ | | | |
| 授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり | ナンバリング：EEU3121101 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>【テーマ】子どもの心身の発達及び学びの過程の理解</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識・理解の観点：子どもの心身の発達の過程と特徴を理解することができる。また、子どもの学びの過程と特性について理解することができる。</p> <p>技能の観点：子どもの心身の発達及び学びの過程を踏まえ、保育者としての子どもへの関わり方を説明できる。</p> <p>態度の観点：子どもの発達や学びに関心を持ち、グループ討議に積極的に取り組む。</p> |
| 授業の概要 | <p>①子どもの発達に関する心理学的知識を踏まえ、乳幼児期の子どもの心身(対人関係、自己、情動、身体的機能、運動、認知、言語)の発達の過程及び特徴を学び、保育者としての関わり方を理解する。</p> <p>②学習に関する基礎的知識を踏まえ、子どもの学びの過程と特性を学び、保育者としての関わり方を理解する。</p> <p>③支援を要する子ども達の発達について理解する。</p> |
| 授業計画 | <p>第1回 講義概要説明、発達心理学を学ぶ意義について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 発達心理学を学ぶ意義を理解する。 【事前学習】テキストpp. 2、10-21を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達心理学を理解することの意義についてまとめる。(2時間)</p> <p>第2回 発達段階・発達課題について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 発達段階と発達課題について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達段階と発達課題の意味をまとめる。(2時間)</p> <p>第3回 発達理論・発達を規定する要因について(グループワーク) ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 心身の発達に影響する外的・内的要因(遺伝と環境)の相互作用と発達に関する諸理論を学ぶ。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達理論と発達を規定する要因についてまとめる。(2時間)</p> <p>第4回 胎児期の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 胎児の発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】胎児の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第5回 新生児期の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 新生児の発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】新生児の特徴についてまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 乳幼児期の対人関係の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の対人関係の発達について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 32-34を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】対人関係の発達(愛着)についてまとめる。(2時間)</p> <p>第7回 乳幼児期の自己と情動の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の自己と情動の発達を理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 34-39を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】自己の発達と情動の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達を理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 39-40を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】身体的機能と運動機能の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第9回 乳幼児期の認知の発達について①第一次認知 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の第一次認知について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 40-43を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】第一次認知についてまとめる。(2時間)</p> <p>第10回 乳幼児期の認知の発達について②第二次認知 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の第二次認知について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 43-46を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】第二次認知についてまとめる。(2時間)</p> <p>第11回 乳幼児期のことばの発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期のことば性の発達を理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 46-51を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】ことばの発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第12回 乳幼児期の学びに関わる理論について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 学びに関する理論を学ぶ。</p> |

| | |
|------------------------|---|
| | <p>【事前学習】テキストpp. 54-59を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びの理論についてまとめる。(2時間)</p> <p>第13回 乳幼児期の学びの過程と特性について(グループワーク) ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の学びの過程と特性について理解する。 【事前学習】テキストpp. 60-69を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びの過程と特性についてまとめる。(2時間)</p> <p>第14回 乳幼児期の学びを支える保育について(グループワーク) ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の学びを支える保育について理解する。 【事前学習】テキストpp. 69-73を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びを支える保育者の関わり方についてまとめる。(2時間)</p> <p>第15回 支援を要する子どもたちの発達理解について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 支援を要する子どもたちの発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】支援を要する子どもの発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第16回 定期試験 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。</p> |
| 授業における具体的な特色や方法 | <p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p> |
| テキスト | <p>『最新 保育士養成講座』総括編集委員会(編) 2023年 『最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助』 全国社会福祉協議会 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 その他担当者が準備します。</p> |
| 参考書 | <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> |
| 評価方法 | 定期試験50%、授業内レポート35%、受講態度15% |
| 評価基準 | <p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足</p> |
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | <p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p> |
| 履修上の注意 | <p>事前学習と事後学習をしっかり行い、保育の基礎である子どもの発達の理解に努めるため、授業中でも積極的に質問を行うこと。 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeams等に提示する資料や課題を必ず確認すること。同時双方向型授業を実施する回は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。</p> |
| オフィスアワー | <p>毎週火曜日 12:20～14:30 西研3-7大城研究室 ※遠隔授業実施期間は、Microsoft Teams・メール等で対応します。(rie@ocjc.ac.jp)</p> |
| 課題に対するフィードバック方法 | <p>授業内レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールボックスに返却します。 ※遠隔授業の場合、Microsoft Teamsを使用します。</p> |

| | | | |
|--------------------|-------------------|-----------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数(週時間) | 科目必選区分 |
| 前期 | 1・2年次 | 2単位 (2-0) | 選択科目 |
| 担当教員 | | | |
| 緒方 茂樹 | | | |
| 授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり | ナンバリング：EEM3232171 | | |
| 添付ファイル | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>テーマ：特別支援教育の内容を理解し、障がい児保育・特別支援教育の基礎を習得する。</p> <p>知識・理解の観点：特別支援教育の理念及び発達障がいの特性とその対応についての知識を身につける。</p> <p>技能の観点：インクルーシブ教育の基本的な概念を正確に説明できる。</p> <p>態度の観点：障がいを含む特別なニーズについて理解しようとする基本的な態度を身につけ、議論に参加できる。</p> |
| 授業の概要 | <p>1) 特別支援教育の基本的な理念を理解し、インクルーシブ教育に当たっての留意点について学ぶ。</p> <p>2) 特別なニーズを有する子どもへの支援に関わる、教育課程、個別の教育支援計画・指導計画の内容を学ぶ。</p> <p>3) 多様な学びの場について理解し、就学支援の仕組みと実際について学ぶ。</p> <p>4) 発達障がいをはじめとする様々なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。</p> <p>5) 貧困、外国に繋がる子ども等、障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。</p> <p>6) 関係諸機関等の種類と役割を理解し、保護者も含めて障がい児保育に必要な連携の在り方について理解する。</p> |
| 授業計画 | <p>第1回 特別なニーズを有する子どもを理解するために ここではまず、特別なニーズを有する子どもを理解するための基礎的なアプローチについて学びます。 次に、特別なニーズを有する子どもとはどのような子どもたちなのかについて理解します。 特に障がい児(者)については、種別と程度の観点から学び、障がいをふたつの軸でみるということの重要性を理解します。 [事前学習]：障がいにはどのような種類があるのかについて調べておく (120分) [事後学習]：障がいをふたつの軸で見るということについて整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第2回 制度・法律の面から見た基礎理解 ここではまず障がいに関する考え方基本的な理念を知るために、国際生活機能分類 (ICF) の概念について理解します。 次に世界的な障がいに対する考え方の推移について学び、具体的な障がい児(者)に関わる法制度の概要とその歴史の変遷を理解します。 特に現代的なノーマライゼーションの考え方に基づく新たな法制度については具体例も交えて学びます。 [事前学習]：「差別の解消法」について具体的な事例について調べておく (120分) [事後学習]：ICFの考え方に基づく具体的な事例について考え、モデルへの当てはめを試みる (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第3回 こころの面からみた基礎理解 ここでは障がい児を理解するために必要な基礎的知識として、心理学的な観点から人間の行動を理解します。 まず人間の行動を決定づける最も基本的な考え方として、「マズローの欲求階層説」を学びます。また、ストレス状態に対する人間の行動パターンについて「適応機制」の分類と内容を知ります。これらの理論を基に、実際の保育場面を想定しながら人間の行動とその背景にある心理学的な背景を知ることの重要性について考えを深めていきます。 [事前学習]：マズローの欲求階層説について調べておく (120分) [事後学習]：自分の体験エピソードを基に適応規制の観点から説明する (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第4回 からだの面からみた基礎理解 ここでは障がい児を理解するために必要な基礎的知識として、医学的・生理学的な観点から人間の行動を理解します。 特に生理学的観点から脳の機能局在について学ぶことで、視覚、聴覚、言語などの中枢が全て脳にあることを知ります。 また、障がいの原因が怪我や病気など末梢の問題のみによるものではないことも知ります。 最後に睡眠のメカニズムを知り、成長ホルモンとの関係から、子どもにとって睡眠がいかに大切かということも理解します。 [事前学習]：視覚障がいの原因について、末梢・中枢それぞれに由来する場合について調べておく (120分) [事後学習]：脳の機能局在について整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第5回 ノーマライゼーションの考え方 (アクティブラーニング) 就学後の特別支援教育ではインクルーシブ教育の推進が望まれており、その根底には「ノーマライゼーション」の考え方があります。 ここでは「ノーマライゼーション」について歴史的な経緯を含めて学ぶことで、健常者(保育者)が障がい児(者)とどのように関わっていくべきかという、最も基本的なアプローチの方法を学びます。 まずグループディスカッションによるアクティブラーニングから、ノーマライゼーションの基本理念を理解します。</p> |

次にバリアフリーやユニバーサルデザインの手法を理解し、障がいのある子もいない子も差別なく生きていける、いわゆる共生社会のために必要な環境要因の設定について実際の保育場面に置き換えながら考えていきます。

[事前学習]：インクルーシブ教育についてその概要を調べておく (120分)

[事後学習]：ノーマライゼーションの基本的な考え方について「発想の転換」という観点から整理 (120分)

第6回

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

インクルーシブ教育と合理的配慮・基礎的環境整備

先に学んだノーマライゼーションの理念に基づくインクルーシブ教育の基本的な考え方について理解します。

さらにインクルーシブ教育を具体化するために不可欠な「基礎的環境整備」と「合理的配慮」について、具体例を交えながら詳細に学びます。

[事前学習]：合理的配慮の具体的な例について調べておく (120分)

[事後学習]：合理的配慮の手順について事例を基にまとめておく (120分)

第7回

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

知的障がい・肢体不自由・病弱等の概要とその理解

ここでは特別支援教育における知的障がいと肢体不自由、病弱の概要について学びます。

知的障がいについては、その原因の多様性と程度の幅について理解します。特に知的障がいの程度とそれぞれに対応するコミュニケーションの問題について詳しく理解します。肢体不自由については、その原因のみならず障がいによって生じるハンディキャップとそれを補うための環境整備についても学びます。病弱については、難病も含めた障がい種別と対応について理解します。

[事前学習]：知的障がいに対してもつ自分のイメージについてまとめておく (120分)

[事後学習]：保育場面における知的障がいへの具体的な対応について障がいの程度も考慮しながら考える (120分)

第8回

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

視覚、聴覚・言語障がいの概要とその理解

ここでは視覚障がい、聴覚障がいと言語障がいの概要について学びます。

視覚障がいについては、視覚、視野、色覚の障がいについてそれぞれ理解します。

また視覚障がいの原因が先天性であるか後天性であるかによる相違と盲と弱視の相違について知ります。

聴覚障がいについては、感音性難聴と伝音性難聴のそれぞれの特性について学び、言語障がいについては、構音障がいや流暢性の障がい等様々な場合について学びます。

[事前学習]：言語障がいに対してもつ自分のイメージについてまとめておく (120分)

[事後学習]：保育場面における言語障がいへの具体的な対応について考える (120分)

第9回

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

発達障がい (AD/HD、LD、自閉症スペクトラム) の概要とその理解

ここでは発達障がい (AD/HD、LD、自閉症スペクトラム) について、その障がい特性の概要を学びます。

まず、発達障がいの診断に関わる歴史的な経緯を知り、脳微細損傷 (MBD) とされた時代から現在の発達障がいにもどのように観点が変化してきたのかを学びます。その事実に基づいて、AD/HD、LD、自閉症スペクトラムそれぞれの障がい特性について、特に「対人関係」「コミュニケーション」「こだわり」「多動」「不注意」「衝動性」等、具体的な例をあげながら言語面や行動面の特徴から学んでいきます。

[事前学習]：カクテルパーティー効果について調べておく (120分)

[事後学習]：自閉症スペクトラムへの対応について整理 (120分)

第10回

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

特別なニーズを有する子どもの事例研究 (アクティブラーニング)

ここでは各種障がい等について、VTR視聴による演習、事例研究等を通してアクティブラーニング形式でその対応の在り方を学びます。

てんかんを伴う重い知的障がいの事例については、コミュニケーションを育むという観点から学びます。いわゆる多動については、行動面の顕著な事例を実際に画像で見ながらその特徴を知ります。自閉症スペクトラムについては、知的障がいの中～重度の事例を見ながら、特にこだわりの様子、コミュニケーションと対人関係の課題について考えます。さらに自閉症スペクトラム特有のパニックについては、自傷行為の実際も見ながら学んでいきます。

[事前学習]：自閉症スペクトラムのコミュニケーションの特性についてまとめておく (120分)

[事後学習]：自閉症スペクトラムの多動への対応について整理 (120分)

第11回

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもの概要とその理解

ここでは貧困や外国に繋がる子ども等、障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもについて、その評価と特性、対応の在り方についてその概要を学びます。

貧困が子どもに及ぼす影響については、家庭環境を考慮した家族支援の観点も踏まえながらニーズに対する対応の方策と留意点について理解します。外国に繋がる子どもについては、LDの理解に関わる内容も踏まえながら、内言語と外言語のギャップや抽象概念の理解に関する問題なども含めて考えていきます。

[事前学習]：貧困に対してもつ自分のイメージについてまとめておく (120分)

[事後学習]：外国に繋がる子どもについて、特にコミュニケーションの観点から具体的な対応について考える (120分)

第12回

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

特別なニーズを有する子どものために多様な学びの場と就学支援

ここでは多様な学びの場と就学支援の実際について学びます。

まず普通学校に設置されている、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級から、特別支援学校、あるいは訪問 (院内) 学級に至る、多様な学びの場について学びます。次に保育所 (園) あるいは幼稚園から小学校への就学支援について学びます。それぞれの学びの場についてその特性と目的、対象児について理解し、就学支援の仕組みについても学びます。

[事前学習]：多様な学びの場の種類について調べておく (120分)

[事後学習]：就学支援の具体的な流れと留意点について整理し、まとめる (120分)

第13回

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

特別なニーズを有する子どもに対する教育課程と個別的教育支援計画・指導計画

ここでは特別なニーズを有する子どもに対する具体的な教育的支援の方策について学びます。

まず、特別支援教育における「個に応じた教育」の重要性を理解します。

次に自立活動を例に、特別支援教育に特化した教育課程の枠組みとその目的について学びます。

| | |
|------------------------|--|
| | <p>最後に実態把握に基づく支援計画の重要性について理解し、個別の教育支援計画と個別の指導計画の目的と内容について理解します。 [事前学習]：個別の教育支援計画の具体例について調べておく（120分） [事後学習]：個別の教育支援計画作成のために必要な関係諸機関（教育、医療、福祉・保健）についてまとめる（120分） 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信 特別なニーズを有する子どもの保護者・家族への支援と障がいの受容 ここではいわゆる「障がい受容」について学び、中途障がいのみならず、保護者と家族支援の実際について学びます。 まず、家族支援の実際として「きょうだい支援」を取り上げ、事例を見ながら具体的に理解を深めます。 また障がい受容の過程については、ショック期から適応期へ至る一連のステージについて、その特性を踏まえながら理解します。 さらに「保護者が我が子の障がいをどのように受け止めるのか？」という観点から、保育士としての保護者への対応のあり方とその留意点について、障がい者手帳取得に関わる問題も交えながら学びます。 [事前学習]：「家族支援」の概要について調べておく（120分） [事後学習]：保育士として障がいを有する子どもの保護者への対応について、特に留意点に絞って整理（120分） 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第15回 まとめと振り返り（アクティブラーニング） これまで学んできたことを基盤として、アクティブラーニング形式でまとめをしながら今後の課題について考えます。 [事前学習]：この講義で最も印象に残った内容についてまとめておく（120分） [事後学習]：「個に応じた教育・保育」について、自分なりの取り組み姿勢について整理（120分） 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第16回 定期試験 15回の講義内容を踏まえて、記述式の期末試験を行います。 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、TEAMSを用いて講義時間内に試験を行う予定です。</p> |
| 授業における具体的な特色や方法 | 1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/> |
| テキスト | 「特別なニーズを有する子どもの育ちと学びを支えるために」（スライドデッキ）事前に配布 |
| 参考書 | 文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館 2017年 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2018年 厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館 2017年 厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 2018年 前田泰弘編 2019年 「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」 萌文書林（ISBN 948-4-89347-326-4 C3037） |
| 評価方法 | 定期試験（60％）、授業中の態度（20％）、授業への参加度（20％） 遠隔授業で行う場合でも、授業時間内にTEAMS経由で試験を行う予定 |
| 評価基準 | 各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。（遠隔の場合には講義内で説明） 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）－：出席不足 |
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | <input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。 |
| 履修上の注意 | 講義には目的意識を持って、主体的に参加し、講義を通じて自ら思考する態度を身につけること。 演習の場面では積極的にディスカッションに参加すること。 また、講義中は他者への迷惑行為（携帯電話・メール・私語・離席等）を固く禁止する。 スライドデッキなど関連する資料は講義開始時あるいはTEAMS経由で配信予定です、講義で使用しますので必ず確認してください。 TEAMS上の資料の格納場所：「障がい児保育の自分のチーム」-「一般」-「ファイル」-「クラスの資料」の下に以下の資料を格納しておきます。 TEAMSにて授業を実施する回は、授業開始時にはコンピュータ・スマートフォンで参加できるよう準備すること 遠隔授業の場合にはチームコードを利用してTEAMSの会議室に入室して下さい |
| オフィスアワー | 授業終了後、あるいは次回授業前に質問を受け付けます。 遠隔授業時には、メールあるいはオンライン面談を行います。 連絡は以下にメールでお願いします（jerrysopart@gmail.com） オフィスアワー 木曜日13：00-14：30 |

| | |
|-------------------------|--|
| 課題に対する フィードバック方 法 | 課題などの詳細は授業内で説明予定です。 遠隔授業の場合にはmailあるいはTEAMSを 経由してフィードバックを予定しています。 |
|-------------------------|--|